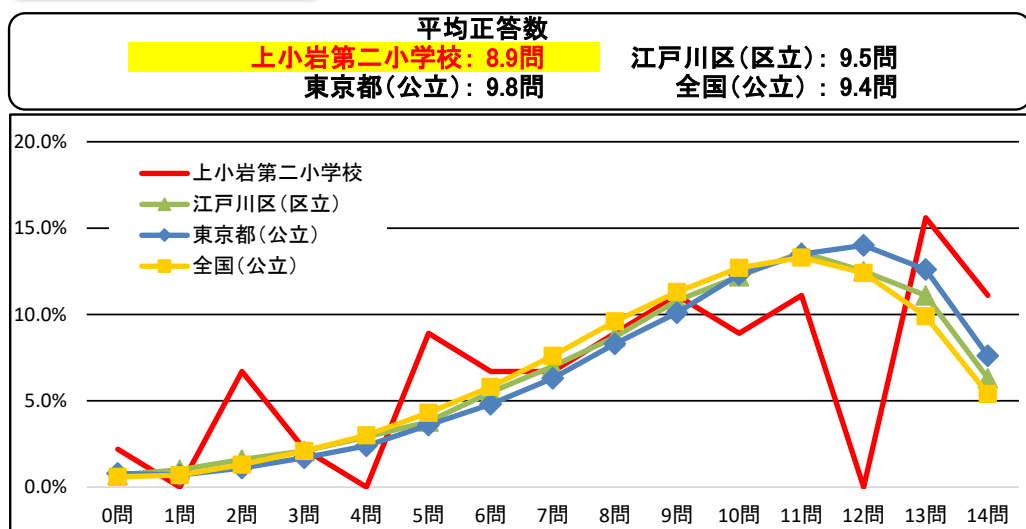


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】 上小岩第二小学校

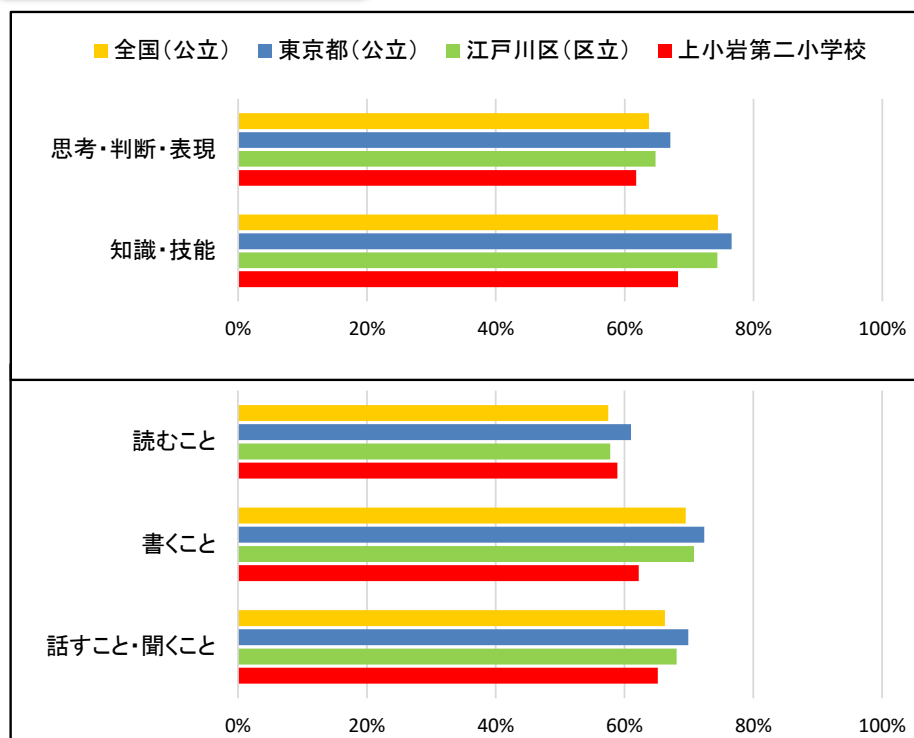
正 答 数 分 布



【平均正答率の差】

上小岩第二小学校	64%
江戸川区(区立)	68%
東京都(公立)	70%
全国(公立)	66.8%
都との差(ポイント)	-6.0

「領域別」の結果

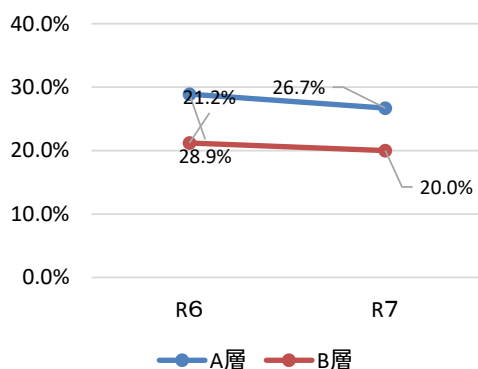


四 分 位 に お け る 割 合 (都 全 体 の 四 分 位 に よ る)

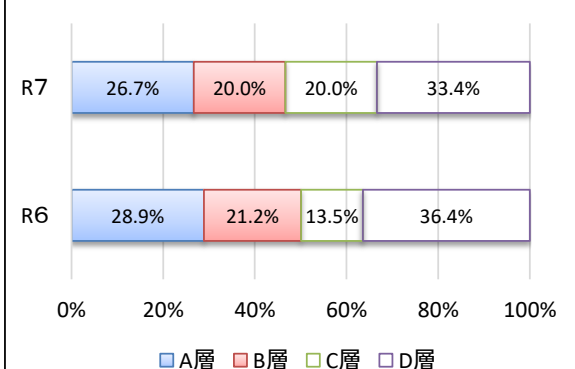
国 語	上位 ← → 下位			
	A層 12～14問	B層 10～11問	C層 8～9問	D層 0～7問
上小岩第二小学校	26.7%	20.0%	20.0%	33.4%
江戸川区(区立)	30.0%	25.8%	19.5%	24.7%
東京都(公立)	34.4%	25.8%	18.4%	21.4%
全国(公立)	27.7%	26.0%	20.9%	25.4%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

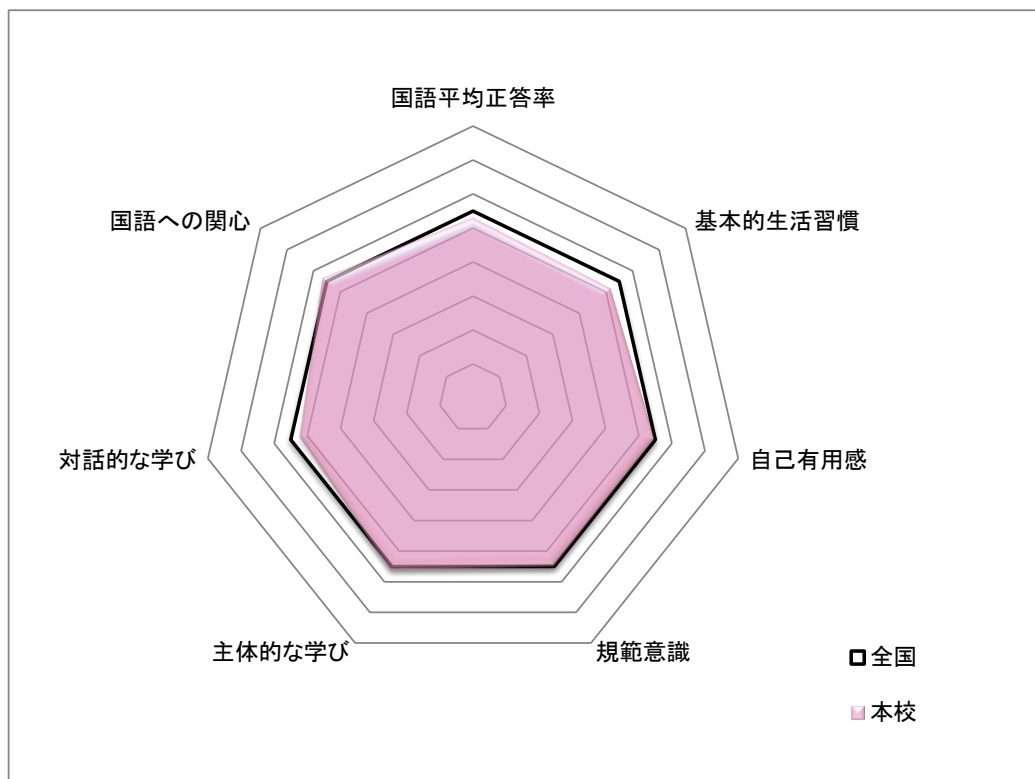
AB層割合の推移



AB層割合の前年度比



各 領 域 に お け る 、 全 国 平 均 正 答 率 及 び 、 全 国 の 肯 定 的 回 答 合 計 値 を 基 準 と し た 場 合 の 、 本 校 の 様 子 。



《チャートの特徴》

- ・国語への興味関心は、全国平均をやや上回っている。
- ・主体的な学び、規範意識、自己有用感については、全国平均と同等であった。
- ・基本的な学習習慣、国語平均正答率については、全国平均をやや下回っている。

《家庭・地域への働きかけ》

家庭に対しては、学校での取り組みが伝わるよう取り組み内容を学年だよりやtetoruで周知するようにしている。また、地域に対しては、学校関係者評価をHPIに載せ、学校の取り組みを周知している。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について

国語科において、令和6年度の結果と比べAB層の割合は下がっていることが分かる。全国、東京都、江戸川区のAB層と比べても数値が低い。教員ごとに授業を工夫し、授業改善に努めているがより一層の充実が必要であると考える。本年度から、図書館蔵書システムのデータ化に伴い、児童の読書環境が整備されるので日々の読書量を増やすことで読解力につなげていきたい。また、国語科を中心として、対話的な学びを重視し、話す聞く力を高めていきたい。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

国語科を専門としている教員を中心によるOJTを実施することで、より実践的な指導法を学ぶことができた。今後も、継続していく。また、全国学力調査の問題を全教員で把握し、課題やそれに対する改善策を検討していく。

・基礎学力の保障

週に1度設定している朝学習の時間には、授業の時間では取り組む時間が取りづらいので、該当学年より前の学年の漢字や言葉の学習を重点的に行うようにする。また、音読や視写など国語科の学習につながることを授業の中で取り入れるようにする。

・学習習慣の確立

実物投影機などのICT機器を活用し、「何を読むのか」「どこを読むのか」を児童に分かりやすい授業を展開することで、学びに向かう力の確立につなげていく。家庭での課題について、漢字や音読を中心として行うようにし、学校以外でも学習習慣が身に付くように働きかけている。

・AB層の育成

AB層の育成に向け、児童が多様な学びを選択できるような環境整備を行い、発展的な内容や定着するような課題に取り組めるようにする。また、A層の学びを全体で共有し、学びを広げていく。